

【現地説明会用資料】



史跡

竹田城跡（赤松氏居館跡推定地の石垣）の 発掘調査

2014（平成26）年12月13日（土）
午後1時～午後2時30分
朝来市埋蔵文化財センター
「古代あさご館」

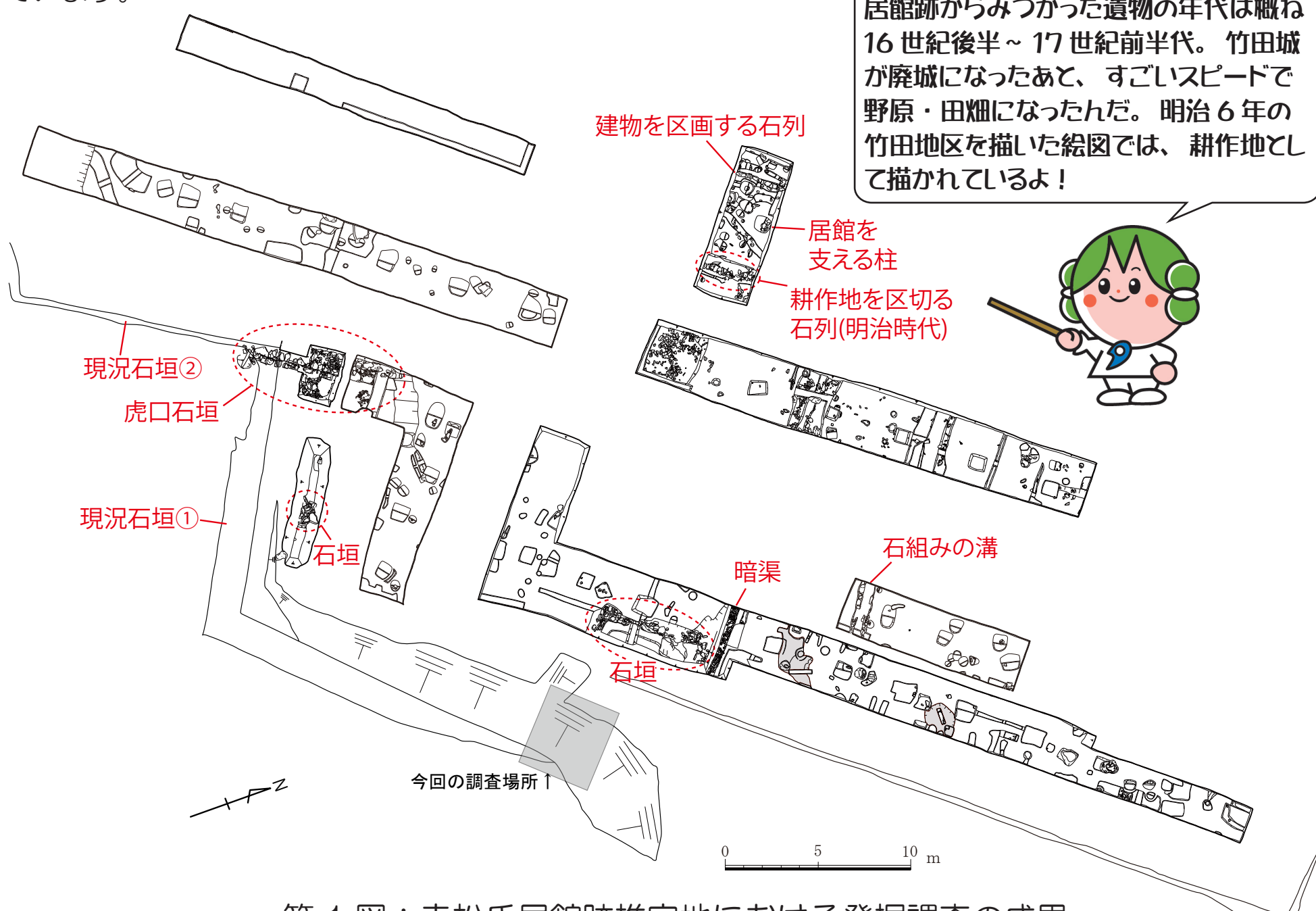
1 はじめに

史跡・竹田城跡は、1431（永享3）年に但馬守護・山名持豊の命で築城が開始され（口碑）、1585（天正13）年に城主となった赤松広秀により総石垣の主郭が整備された、日本屈指の山城です。1600（慶長5）年の廃城後も、地元・竹田地域の人々の手で大切に守られてきましたが、2004（平成16）年に発生した台風23号によって、古城山および竹田城下町は甚大な被害を受けました。赤松広秀の居館跡推定地をぬけ、広秀の供養塔を避けるような形で居館東南隅石垣を破壊し、法樹寺へなだれ込んだ土石流と境内の惨状は、いまま現地に大きな傷を残しています。

このたび、朝来市では、この石垣について保存・修復をはかることとなりました。この事業にあたり、台風23号で被災していない箇所についても実態を明らかにすることで、全体としてより良い保存修復をはかるべく、事前に発掘調査を行うこととなりました。

2 赤松氏居館跡推定地とは～過去の発掘調査より～

朝来市教育員会では、2006（平成18）年～2008（平成20）年にかけて発掘調査を行っています。そこでは、赤松氏が平時に身を置いた居館を区切る石列や礎石の一部、当時の虎口石垣などを確認しています。



第1図：赤松氏居館跡推定地における発掘調査の成果